



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 270
September
2015

トピックス

お知らせ

アジア防災センター新所長の就任挨拶

関係機関との防災協力推進

JICA研修「中央アジア・コーカサス地域総合防災行政コース」プログラムの実施

ADRC客員研究員レポート

ヴィゲン・ハルチュニヤン（アルメニア）

インターンレポート

▶ 山村紀香さん

▶ クリシュティアン・ベニョさん

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2015

●お知らせ

アジア防災センター新所長の就任挨拶

2015年7月31日付でアジア防災センター所長を拝命しました近藤共子（こんどう きょうこ）と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

本年1月で阪神・淡路大震災から20年がたちました。大震災は、横浜で最初の国連世界防災会議が開催された翌年のことでした。この世界会議の折に当時の国連防災の十年事務局（IDNDR事務局、ジュネーブ）にいた者のひとりとして、今般、アジア防災センター所長に着任し、非常に感慨深い思いがあります。

東日本大震災から4年目となる今年、日本列島は豪雪、度重なる台風や豪雨、火山噴火活動等に見舞われており、アジア諸国においても自然災害のニュースが途絶えません。

多くのアジア諸国にとって、これからの10年は、我が国の高度成長期を思わせる、人口増加と都市化、経済成長の時代、特別の時代を迎えています。このような大きな変化は、大きな機会をもたらすものであるのと同時に、都市や農山漁村の災害に対する脆弱性が高まる危険も孕んでいます。アジア防災センター（ADRC）は、阪神・淡路大震災を契機に1998年に設立され、オリンピックに先立つこと2年、2018年7月に設立二十年を迎えます。

その後の10年も視野に、仙台枠組みを踏まえたこれからのアジア諸国の持続的発展に向けた課題について、メンバー諸国の皆様と議論を深め、貢献してまいりたいと思います。

引き続き皆様の御支援、御協力を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

略歴：

1989年：国土庁入庁（現国土交通省）。国土交通省土地・水資源局、都市・地域政策局、国土政策局のほか国際連合国連防災の十年事務局、OECE公共ガヴァナンス・地域開発政策局等において勤務。前職は国土交通省国土政策局総務課企画室長。

●関係機関との防災協力推進

JICA研修「中央アジア・コーカサス地域総合防災行政コース」プログラムの実施

ADRCは、国際協力機構関西国際センター（JICA関西）と協力し、2015年6月23日から7月31日にかけて中央アジア・コーカサス地域の防災担当行政官を対象とした「中央アジア・コーカサス地域総合防災行政コース」を実施しました。中央アジア・コーカサス地域では、地震、洪水、地すべりといった災害が多く発生し、春におこる山岳部の雪解け水による鉄砲



続き

水・洪水リスクを抱えています。またこれらの災害は複数の隣接国に及ぶこともあり、本地域における防災協力の推進が重要な課題の一つとなっています。

本研修は、防災行政に関する全体的な日本の防災の知識や経験、蓄積してきた技術を提供するとともに、研修員がそれぞれの国において自国の現状と課題を分析し、より良い防災体制を構築するための改善案を策定することを目的としています。今年度は、コーカサス地域のアルメニア、アゼルバイジャン、及び中央アジア地域のカザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタンの計7カ国から、中央または地方政府の防災担当行政官計16名が参加し、ロシア語による研修が行われました。

研修員は、中央・地方政府、研究機関、民間企業、気象機関、NPOなどから講義を受け、日本の防災について幅広く学びました。また、神戸市の防災福祉コミュニティが実施する防災ジュニアチームの防災訓練を見学したり、新潟で新潟中越地震の被災地、及び土砂災害対策の現場を視察したりしました。また今回は初めて広島を訪問し、昨年発生した土砂災害の被災地での住民との交流や、大災害の記憶の継承について学ぶために広島平和記念公園を訪問しました。

帰国後、彼らが研修で学んだ知識、技術、手法を様々なプロジェクトに活用し、自国のより良い防災体制を構築していくことが期待されます。当研修実施にあたり、訪問等を受入れていただきました各関係機関の皆様には厚く御礼申し上げます。今後とも引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



新潟中越地震被災地の視察

●ADRC客員研究員レポート

ヴィゲン・ハルチュニャン（アルメニア）

はじめまして。私はアルメニアから来ましたヴィゲンハルチュニャンと申します。私は、アルメニアにおいて、様々な防災活動を主な活動とする国家地震防災研究所（NSSP: National Survey for Seismic Protection）につとめています。NSSPでは、西部地震調査所において、地震評価センターの部長として従事しています。

私が所属する部署は、NSSPが設立以降、主に災害情報に関する管理・監視に努め、データの分析と同様に、地球物理、地球化学、地震ネットワークシステムから得られた情報を蓄積し、24時間対応のオペレーションを実行してきました。

アルメニアは先進国を目指して前に進もうとしています。私たちは、世界中の科学分野からの専門的知識を得て日々更新し、アルメニアの継続的開発に寄与すべく頑張っています。そこで、ADRCの客員研究員プログラムから得られる理論と経験などから、ミレニアム開発目標（MDGs）の貢献に適用できるだろうと思います。

ADRCの客員研究員プログラムに参加できたことはとても良い機会だと思います。きっと、多くの知識やノウハウをここで得ることが出来ると思います。この分野における日本の方法論を得ることにより、私の業務はより実践的になり、データ解析の問題解決により焦点をあてられると思います。さらに、私の組織における防災活動の分野に役立てられるような、技術や方法を得ることが出来るだろうと確信しています。

今回得られる情報と実際の経験は、NSSPおよびアルメニアのために、非常に重要な要素となることであるということを、最後に述べさせていただきます。



●インターンレポート

ADRC インターンシップ (山村紀香さん)

はじめまして。関西大学社会安全学部3回生の山村紀香と申します。この度、2015年9月2日から8日までインターンシップとして、ADRCで勤務させていただきました。大学では、地震や防災について学んでいます。そのため、ADRCで災害関連の仕事に少しでも携われたことに感謝しています。

今回のインターンシップでは、様々な経験をさせていただきました。災害データ更新作業だけでなく、国際フロンティア産業メッセでフランスから私同様インターンに来ているクリスティアンさんのプレゼンテーションの聴講や、VRの方々と神戸市危機管理センターや兵庫県広域防災センターを見学しました。英語でコミュニケーションを取ることにまだまだ不慣れな私に対して、客員研究員の方々は気さくに分かりやすく話しかけてくださいました。また、所員の方々も優しく話しかけてくれ、沢山交流することができました。そのおかげで、非常に充実した5日間となりました。短い間でしたが、実習期間中に学んだことや感じたことを将来に活かしていけるよう、努力して参りたいと思います。

最後になりましたが、今回このような機会を頂いた、ADRCおよび関西大学に改めて感謝を申し上げます。



ADRCインターンシップ (クリシュティアン・ベニョさん)

私の名前はクリシュティアン・ベニョです。ハンガリー出身ですが、昨年フランスの大学院で研究を行っています。セヌ・エ・マルヌ県経済振興公社（フランスのセヌ・エ・マルヌ地域の都市開発や産業開発を行っている組織）と公益財団法人兵庫国際交流協会により実施されている「ひょうご海外研修員プログラム」の一部として、8月24日から9月11日までの3週間、ADRCでインターンとして過ごしました。私の専攻は数学ですが、地震、地滑り、海流、あるいは、沿岸波浪のような物理現象に基づく複雑な波動や流動の数学的な分析法について研究しており、私の研究テーマは自然災害や災害管理とも密接に関連しています。

ADRCでは研修プログラムの一環として、自己紹介を兼ねて自分の研究テーマ（地震の理論的なモデリング、地滑りの数学的な分析と沿岸波浪のシミュレーション）をADRCとIRPのスタッフに対して発表する貴重な機会が与えられました。また、外国人客員研究員たちとともに、専門家による講義や、神戸市消防局、兵庫県警本部、兵庫県災害対策センター、兵庫県広域防災センターなどにも施設見学に行きました。

ADRCでの滞在中、自然災害に関して様々な視点から多くの洞察を得ました。総合的に、一般的なものごとをとらえ、理解することが、数学のような科学的なモデルやシミュレーションの構築と分析において大いに役立ちます。ADRCでは、数学的な分析を行う研究の機会はなかったけれども、防災や災害管理に関するいろいろな主体や要因を知ることは、私の研究において非常に重要です。

このようなすばらしい経験をする機会を与えていただいた職員のみなさんに対して感謝の気持ちでいっぱいです。



問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は
editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。